

書評

[評者]
松村真司
松村医院院長



ナラティブ・メディスン 物語能力が医療を変える

Rita Charon 著

斎藤清二・岸本寛史・宮田靖志・山本和利 訳

A5判 頁400 2011年
定価 3,675 円(本体 3,500 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-01333-8] 医学書院刊

中学・高校時代、通学時間が長かったこともあって往復の電車では本をよく読んだ。圧倒的に多かったのは当時人気の SF 短編集や映画のノベライズ小説であった。国語教師でもあった高校の担任が、家庭訪問に来たときにそんな本ばかりがずらりと並んでいる私の本棚を一瞥して、そして言った。「こんな本は本ではない」。

それから数十年もたった今も、私はその言葉に決して同意はしない。なぜならば、彼が本ではない、と告げたさまざまなテキストたちはすべからず私を揺さぶり、その後の私と私の世界を形成したからである。読書という行為は、文字を介して、時間や空間、そして世界のすべての約束事さえも超えて他者の紡いだ物語に触れることであり、自己は形成されていくのである。

臨床は、病や死といった生活の中で比較的大きな部分を占める事象を主たる対象にしている。もちろん私たち医師の行為は医学という物語の枠の中で規定されている。そして、その制約は自分を苦しめ、時に患者を、そして世界をも苦しめていく。日々私たちが臨床で遭遇する苦しみ、悲しみは、このような医学という固有の物語による身体的・精神的制約から生じているのではないかと、感じることもさえる。世界には、医

学という物語から離れた無数の物語が存在し、それらは密に交錯している。そして医学もまた、そういった自己から他者へ、他者から自己の果てしない交錯のうえに成り立っている。

本書は、一般内科医師かつ文学・倫理学博士でもある、コロンビア大学リタ・シャロン氏によって書かれたナラティブ・メディスンの解説書である。ナラティブ・メディスンとは、ナラティブ・コンピテンス(物語能力)を通じて実践される医療であると定義され、本書はナラティブ・メディスンとは何か、から始まり、ナラティブ・コンピテンスの涵養のための精密読解(close reading)やパラレル・チャートの用い方などの訓練法が、実践例とともに解説されている。そして、ナラティブ・メディスンがこれからの医療、特に生命倫理の枠組みや社会正義の実現などに向けてどのように活用されていくかの展望が記され、新たな医療の可能性を示している。

本書の邦訳版の序文にシャロン氏自らが寄せているように、これらの物語たちの中に、先の戦争や震災の試練を経た東洋の小国で暮らす私たちの物語たちが加われば、世界はさらにその深みを増していくに違いない。